

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2772500720
法人名	特定非営利活動法人 アポロン介護事業団
事業所名	グループホーム アポロン池田
訪問調査日	平成 19 年 10 月 30 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 29 日
評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2007年11月1日

【評価実施概要】

事業所番号	2772500720
法人名	特定非営利活動法人 アポロン介護事業団
事業所名	グループホーム アポロン池田
所在地	大阪府池田市木部町416 (電話)072-753-3151

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成19年10月30日	評価確定日	平成19年11月29日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	12 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 14.6 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有(400,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	50 円
	または1日当たり			円

(4)利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.4 歳	最低	67 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	くさかベクリニック	キツカ歯科医院
---------	-----------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは池田市の五月山の近くにある。建物は国道から近くでありながら周りが緑豊かな植木農家の畑に囲まれている。当ホームが重視している介護方針は「職員が利用者に関わる」ということである。すなわち暮らしの中で職員が利用者に対して積極的に関わりながら残された能力に働きかけ「利用者が出来る事を引き出す」介護を全職員で追及している。また、介護記録日誌に工夫があり、個人ごとに介護計画書の介助の項目が記入された様式となっているので、日常の介護実践が介護計画に沿った内容で行われるように徹底されている。運営者、管理者と職員がチームワーク良く最善の認知症介護を目指して努力を続けている様子が伺えるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回のサービス評価における自己評価及び外部評価で確認した内容を含めて課題を見出して改善する姿勢が感じられる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価を仕事の客観的な見直しの機会と認識して取り組んでいる。次回の自己評価では職員全員が参加する取り組みを期待する。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回の頻度で開催し、地域の代表として介護相談員及び地域包括支援センター員及び利用者と家族の代表が参加して、ホームの状況や日々の暮らしぶりや行事が報告されている。前回のサービス評価結果についても会議の場で報告された。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	3ヵ月毎の介護計画見直しの機会に家族から「希望書」を出して貰うようにして家族の意見や要望を聞くような仕組みを作っている。家族が要望を出しやすくする配慮が伺える。運営推進会議も家族の意見を聞きだす場と考えている。定期的にホーム便り「アポロン通信」を発行してホームの様子を知らせている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民の一員としてホームが地域から孤立しないように外に向けての地域活動に参加したり、努力を続けている。具体的な活動事例が増えて来ている、地区福祉委員会を通じた活動やボランティアの支援を受けている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家族の方々、地域の方々、ボランティアの方々と協力して介護福祉の理想を追求します」とあるように地域密着サービスを踏まえた具体的な理念を作り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を職員に徹底する仕組みとして、新入スタッフ教育体制の確立や定例のスタッフ会議による再確認・周知徹底が行われ、職員が理念や方針を実践している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員としてホームが地域から孤立しないように外に向けての地域活動に参加したり、努力を続けている。具体的な活動事例が増えて来ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は評価を活かした改善活動に積極的である。ホームの現状を見直す機会と考えて評価に取り組んでいる。	○	サービス評価における自己評価について。職員も参加の上で各評価項目の指針について話し合いをして欲しい、次回の自己評価では全職員が参画する取り組みを期待する。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回の頻度で開催されている。地域の代表として介護相談員及び地域包括支援センター員がメンバーとなっている。さらに利用者と家族の代表が参加してホームの状況や日々の暮らしぶりや行事が報告されている。サービス評価結果についても会議の場で運営者から報告されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する事業所連絡会議等の機会を利用して、池田市高齢介護課等の市担当窓口との情報交換が行われている。行政との情報交流に積極的である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に対しては3ヵ月毎の介護計画書を送付している。具体的な介護方針を報告して、家族の意見も文書等で聞くようにしている。家族がケアに協力しやすいような配慮が伺える。他に定期的にホーム便り「アポロン通信」を発行して他の利用者を含めたホームでの暮らしぶりを知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヵ月毎の介護計画見直しの機会に家族から「希望書」を出して貰うようにして、家族の意見や要望を聞くような仕組みを作っている。家族が要望を出しやすくする配慮が伺える。運営推進会議も家族の意見を聞きだす場と考えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの職員から支援を受けられるようにユニット毎に職員配置を固定化している。管理者は職員と利用者の関わりを大切に考えており利用者本位の勤務体制に配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者、管理者は高いレベルのケアを実現する目標を掲げて職員の育成に努めている。入職時から段階的な育成計画を用意して職員のトレーニングを行っている。外部研修にも機会を見つけて参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市が主催する事業者交換会等の同業者との交流行事には積極的に参加するように心掛けている。同業者の会議等での講師依頼を引き受けるなど業界の発展への努力や協力を惜しまない管理者の姿勢が伺える。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	現在、通い(デイサービス)の利用者を2名ほど朝から夜21時まで介護しているが、このように職員と信頼関係を徐々に作りながらホームの雰囲気になれていくように、本人や家族が安心できる仕組みを作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者及び職員は常に利用者へ接して働きかけながら、利用者の残された能力を引き出す支援を大切に考えている。利用者との支えあい関係を作るように努力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者および家族から本人がどのように暮らしたいか、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。本人の意向に沿って元気で暮らせるように自立支援に力を入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者個々の介護計画書が本人、家族や職員の意見を聞いて作成されている。日常の介護記録日誌が介護計画の要点を抜き出して個人毎にあらかじめ作成されているので計画と実施のずれが無い仕組みが実現している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の評価を行い見直しがされている。見直した介護計画書は家族にも届けられ家族の意見を聞く仕組みが出来ている。家族は本人がどのようなケアを重点的に支援して貰っているかが良く理解できる仕組みになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症対応通所介護の指定を受けて2名のデイサービスを行っている。2階ユニットでホームの利用者と一緒に日中の生活を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は利用者および家族の希望で提携医院のくさかべクリニックでの受診支援を行っている。毎週木曜日に訪問往診を受けられるようにしている。認知症についても専門であり家族の相談にも対応可能となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当ホームでは入居の段階の重要事項説明の過程で重度化の対応指針を家族に説明している。具体的対応が必要となった場合は、早期に家族やかかりつけ医と相談の上で方針の確認をして同意書を貰う手順を作っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はトイレ誘導や入浴時などの支援時には、利用者の誇りやプライバシーに配慮した声かけや対応をするようにしている。個人情報の取り扱いについても配慮が行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、常に利用者のペースに合わせる事を第一に考えた介護に徹するように管理者から指導を受けている。利用者が主体で暮らせるような支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けから食卓の準備、後片付けなどを利用者全員が何かの役割を担当し、職員の支援を受けながら楽しそうに行っている。職員は和やかな雰囲気できりげないサポートをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望に合った入浴支援が行われている。風呂は毎日用意して最低でも週に2回の入浴が行われている。職員はくつろいだ入浴が出来るように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者が張り合いを持って暮らせるように生活や家事の中で、あるいは趣味や行事の中で利用者夫々が役割を持てるように支援や場面づくりに工夫している。職員も喜びや楽しみを分かち合っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩の時間を設けている。ホームの周りが植木畑で散歩に適しているため、戸外の刺激を豊かに受けられる環境にある。利用者の体調体力に応じた対応となっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	特定の利用者の状況により、利用者の安全を優先して日中入り口の鍵をかける場合もある。利用者の家族には了解を得ている。また外へ出る様子があれば職員が見守りながら不穏にならないように対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間や早朝の想定訓練を含めて法令で定めた避難訓練を実施している。避難通路の確保や消火器等は整備されている。建物が独立しているため隣からの類焼の恐れはないと考えられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	前の月に1ヶ月分の献立が栄養バランス等を考慮して作られている。個人個人の介護計画書に基づいた食事の内容や分量や水分確保等の管理も行き届いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、居間、食堂、キッチン等が広く清潔な感じがする。利用者が日中落ち着く居場所が適切に確保され、全体的に明るい感じがする。2階ユニットの居間の天井は高く、ボランティア行事やリクリエーション活動等に適したスペースとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は利用者が落ち着いて過ごせるように、馴染みの家具や品物が置かれていて、室内は清潔に保たれている。職員が家族と相談しながら利用者の居室作りに工夫している様子が伺える。		